

#### ④ 貨物室に煙が発生したとの警報により、非常脱出

概要：D航空所属エアバス・インダストリー式A330-303型機は、平成17年8月21日、成田国際空港を離陸しパース国際空港へ向けて飛行中、貨物室に煙が発生したことを示す警報がモニター表示されたので、目的地を関西国際空港に変更して、同空港に着陸した。

その後、同機が駐機場場へ向かう途中、誘導路上で脱出スライドによる非常脱出が行われた。

同機には乗客181名及び乗務員13名の計194名が搭乗していたが、脱出の際、乗客1名が重傷、乗客8名が軽傷を負った。

同機に機体の損傷はなかった。

#### 非常脱出までの経過

23時05分ごろ

同機が飛行中、貨物室で煙が発生したことを示す警報が発せられた

23時43分ごろ

その後も煙警報が発せられたため、機長は関西国際空港へ向かうこととした

0時51分

同機は関西国際空港に着陸し、誘導路で停止した

0時55分ごろ

空港消防指揮車は、同機のコックピットの下付近から白煙のようなものが出ているのを視認し、その旨を管制塔に報告した。その後突然同機の脱出スライドが開いた

0時57分ごろ

機長は機体のノーズ・ギア辺りから煙が出ていることを確認し、脱出スライドを使用して脱出する旨をタワーに送信し、脱出が開始された

#### 重傷者の内訳と状況

○女性 年齢不明 骨盤骨折  
脱出スライド下部で、後ろから抱きかかえていた保護者の腕から離れて腰から地面に落下した

なお、軽傷者8名は、打撲、擦過によるものであった



### 脱出の状況

- 乗客の中には手荷物や小型のキャリーケースをもって避難している人もいた
- 使用した脱出スライド数は8箇所中7箇所、1箇所はドアが開かなかった
- 3箇所の脱出スライド下で消防隊員が補助したが、重傷者が発生した箇所では補助者はいなかった
- 客室乗務員は、最初に地上に降りた乗客に後続者に対する補助を依頼していなかった

本事例の調査報告書は当委員会ホームページで公表しております。

(平成 20(2008)年 3 月 28 日公表)

<http://www.mlit.go.jp/jtsb/aircraft/rep-acci/AA2008-3-1-VH-QPE.pdf>